

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在：東京都八王子市
園名：多摩文化保育園

1. 活動のテーマ

(ア) テーマ

音楽表現の探求

(イ) テーマ選定のねらい

園児が様々な音楽の素材に触れ、楽しむことで音楽への感性を豊かにする。更に、自分なりの音楽に対するイメージを形作り、自らの声や身体を媒介してそれらを表出することで、それぞれの園児が主体的に音楽表現の世界を探究する。

2. 活動スケジュール

令和6年4月～令和7年3月 ※各月1回

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

素材・道具：ピアノ、打楽器

環境の設定：専門の音楽講師，担任保育士

4. 探究活動の実践

(ア) 活動の内容

2歳児クラス(もも組)・3歳児クラス(ひまわり組)を対象に当施策を行いました。施策の開始期においては、講師のピアノの音源に合わせて園児が身体を動かし、保育者と共に基本的なリズムの取り方を主に確認しました。また、リズム・音楽を自ら表現する足がかりとなる取組みとして、園児が打楽器(トライアングルなど)を演奏しました。

施策の中期では、更に発展して、園児に動物や忍者などのキャラクターを連想して貰いながら、リズム・音楽を身体で表現してもらう取組みを増やしました。例えば、カニに自らを見立てた際には横歩きでゆっくりとリズムを表現してもらいました。忍者になりきった時には、忍び足でテンポを上げ

て皆で楽しく活動しました。会の最中や会の後には、保育者に楽しそうに感想を共有する園児の姿が見られました。

終了期には、連想のバリエーションを更に増やすと共に、指の動きなどの微細な表現を加えることで、園児がより広く深い音楽表現の探求を行いました。12月に開催されたクリスマス音楽会では、探求活動を通して成長した姿を園児達のご家族に向けて披露しました。会の準備に当たっては、保育者と一緒に、自らよく考えながら練習に取り組む園児の姿がありました。

(イ) 活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり



それぞれの活動には、講師が全体に対して簡単なレクチャーを行うパート、園児と保育士が共に身体を動かし、リズム・音楽表現の探求を行うパートの、大きく分けて2つのセクションがありました。写真はそれらの様子を示したものです。

園児は、講師が示すお手本に集中して向き合い、リズムを自分のなかに落とし込み、どうすれば自分なりの音楽表現が可能になるのか一生懸命考えました(写真左)。更に、普段から接する担任の先生たちの見守りの元で、安心してお友達と一緒にその成果を発揮するなかで、声や身体を用いた音楽表現の探求を行いました(写真右)。 ※プライバシー保護のために写真を一部加工しております。

5. 振り返り(振り返りによって得た先生の気付き)

二分音符・四分音符・八分音符のリズムに合わせて、手拍子や足踏みを行うことで、場に居る全員がリズムに合わせて体を動かすことの楽しさを味わいながら活動し、子ども達のリズム感を養うことが出来ました。初めて触れる楽器(トライアングル)を自分で叩いて音を鳴らすことができ、普段できない体験をした子どもたちには、嬉しそうな表情が見られました。音の鳴らし方や踊りには子ども達それぞれの個性が出ていて、表現することの楽しさ(探究する楽しさ)を感じることが出来たのではないかと思います。